

教育実習 報告

[市立 Y 中学校 保健体育] 氏名：N.R

教育実習を終えて

● 学校観

私が実習を行った中学校は、学校自体が明るく、挨拶もできており、とてもいい雰囲気の学校であった。教師と生徒の信頼関係がとれていたのでと思う。うるさい授業もあったが、授業が崩壊していることは無く、騒がしいというよりも、しっかりとコミュニケーションが取れた授業だったから問題はなかった。また、どの教科においても、生徒が自主的に考える時間を与えており、グループワークを設けている授業が多かった。部活も教師が積極的に顔を出して熱心に指導をしていた。

● 教師観

教師観で感じたことは、教師全員の友好関係がとても良かった。学年団の関係はもちろんのこと、他の学年の先生との交友関係も良かった。その結果、問題を起こしやすい生徒を、学年団の先生だけでなく教師全員で監視することができていた。さらに、様々な生徒の情報を共有しているから、ある教師が、担当していない学年の中に入っても戸惑いを見せることがなかった。

担任を持っている教師とクラスの間関係を見ると、教師の雰囲気や性格が、そのままクラスの雰囲気になっていることがわかった。例えば、明るく元気な教師がいる担任のクラスは、明るく元気なクラスになる。また、メリハリのある教師のクラスは、クラス自体もメリハリのある行動をとるようになる。反対に、適切な対応をしたり、生徒をあまり見ていない場合は、クラスみんなが違う方向を向いてバラバラになることも分かった。

● 生徒観

実習先の生徒は、元気な生徒が多かった。中学生ということもあり、初めて会う人に対してすごく興味を持ち、生徒から積極的に話しかけてくれることが多かった。また、相手のことを考えて内容を整理し話すことができず、思ったことを全て口に出してしまう生徒も多かった。思ったことを全て口に出してしまうということは、教師に対してだけではなく、生徒に対しても同じように接していたので、生徒同士で衝突することもあった。

男子生徒と女子生徒の違いでは、男子よりも女子の成長が早いと感じ、言葉遣いも気をつけなければならないと思った。しかし、まだ子供らしいところもあり、かまってほしいという素振りも見せるところがあった。学年によっても言葉遣いを変えなければいけないと分かった。例えば、中学 1 年生は小学生と話している言葉遣いでよく、内容も簡潔に短く言わなければならないが、2 年生になると、少し詳しく、論理的に話すことができた。3 年生になると、最高学年ということもあり、大人と接するよう

に会話をする事ができる場面が増えた。

中学生というのは心身ともに1番成長する時期であるから、教師も言葉遣いや態度を変えて接していかなければならないと感じた。

生徒の中にはよくイタズラをする生徒がおり、生徒本人は、遊び半分でやったイタズラが、相手を傷つけることとなったりもした。そこで、私は生徒を怒った。なぜそのようなことをしたのか、なぜ相手が傷ついたり、怒ったりしたのかをしっかりと認識させた。すると、私に怒られた生徒は、自分が悪かったことを認め、相手に謝り、一件落ち着いた。その翌日、私はイタズラをした生徒と会った。とても気まずそうな顔をしていた。おそらく、私がまだ怒っていると思っていたのだろう。だから、私は自分から生徒の方に行き、何事もなく会話をすると、最初は様子を伺っていたが、すぐにいつもの元気で明るい様子に戻った。それからは、向こうから話しかけてくれることが多くなり、その生徒との距離が近くなった気がした。